

サウンドスケープ

聖心女子大学教授 鳥越けい子先生のお話、各種資料より首都機能移転企画課作成
鳥越先生のエッセイ

1. サウンドスケープ

「サウンドスケープ[Soundscape]」という言葉は、「サウンド」と、「眺め／景」を意味する接尾語「スケープ[-scape]」とを複合させたもので、カナダの現代音楽作曲家・音楽教育家R. マリー・シェーファー [R.Murray.Schafer]が1960年代末に提唱。日本においては、「音の風景」などと言われ、音の環境を自然科学・社会科学・人文科学のあらゆる側面にわたって総合的に見据える概念として捉えられ、環境学、文化人類学、音響学、騒音行政、環境デザインなどの分野において、音に関する問題を取り扱う際の新しい切り口([日本サウンドスケープ協会](#) HPより作成)

2. 都市デザインとサウンドスケープ

(1) 都市をデザインするとき重要な五感。その重要な構成要素であるサウンドスケープ

- ・ 我々は、都市、地域というものを五感を通じて体験。例えば、海に行ったとき、青い海、砂浜、沖に浮かぶ島といった眼に見えるものだけではなく、潮騒のざわめき、水鳥の鳴き声、湿り気のある磯の香り、足元の触感など、トータルに海辺を実感
- ・ しかし、都市はビジュアルなもの、施設など形のあるものの集積として

デザインされやすく、音をはじめ他の感性の視点は無視されがち

(2)いろいろな音の集積で出来ている都市

- ・ 人為的にデザインされた音ばかりでなく、色々な音の集積で都市は形成
- ・ 都市デザインで音を重視となると、カリヨンや BGM を流す話になるが、サウンドスケープはその先の思想
- ・ 物理的に都市計画上は問題な地点も、サウンドスケープ的にみると違う側面。例えば、アメ横はアジア的喧騒がみられ、元気になる都市の癒し効果を保有

サウンドスケープから捉えた音の世界(鳥越けい子先生による)

- | | | |
|---|--|------|
| A | 人口音(発音を目的とした装置からの音) | |
| | ・ スピーカー等からの電氣的な音/電子音/その他の装置からの音 | |
| | ・ 風鈴の音、ししおどし、楽器の音、音響彫刻、etc | ⇒活気 |
| B | 人間の活動の音/自然界の音 | |
| | ・ 足音、作業音、話し声、掛け声、生活の音、etc | ⇒静けさ |
| | ・ 風の音、樹々(葉、小枝)のざわめき、鳥の鳴き声、羽ばたき、虫の声、etc | ⇒雰囲気 |
| C | 記憶の音/伝承の音 | |
| | ・ 民話の音、想像の音、イメージの音、etc | ⇒気配 |

(3)都市のサウンドスケープデザインにあたって

- ・ 例えば、水辺の感じを出すデザインの場合、ハワイアンの BGM を流すのではなく、訪れた人が水面近くまで下りられるようする、潮騒の音にも配慮して護岸をつくるということになると、土木造成レベルのデザイン
- ・ 音は時間軸の概念が重要
- ・ 音を指標化し、都市の環境を考えることが必要
- ・ いい音を保存し、それを聞きながらサウンドスケープデザインのコンセ

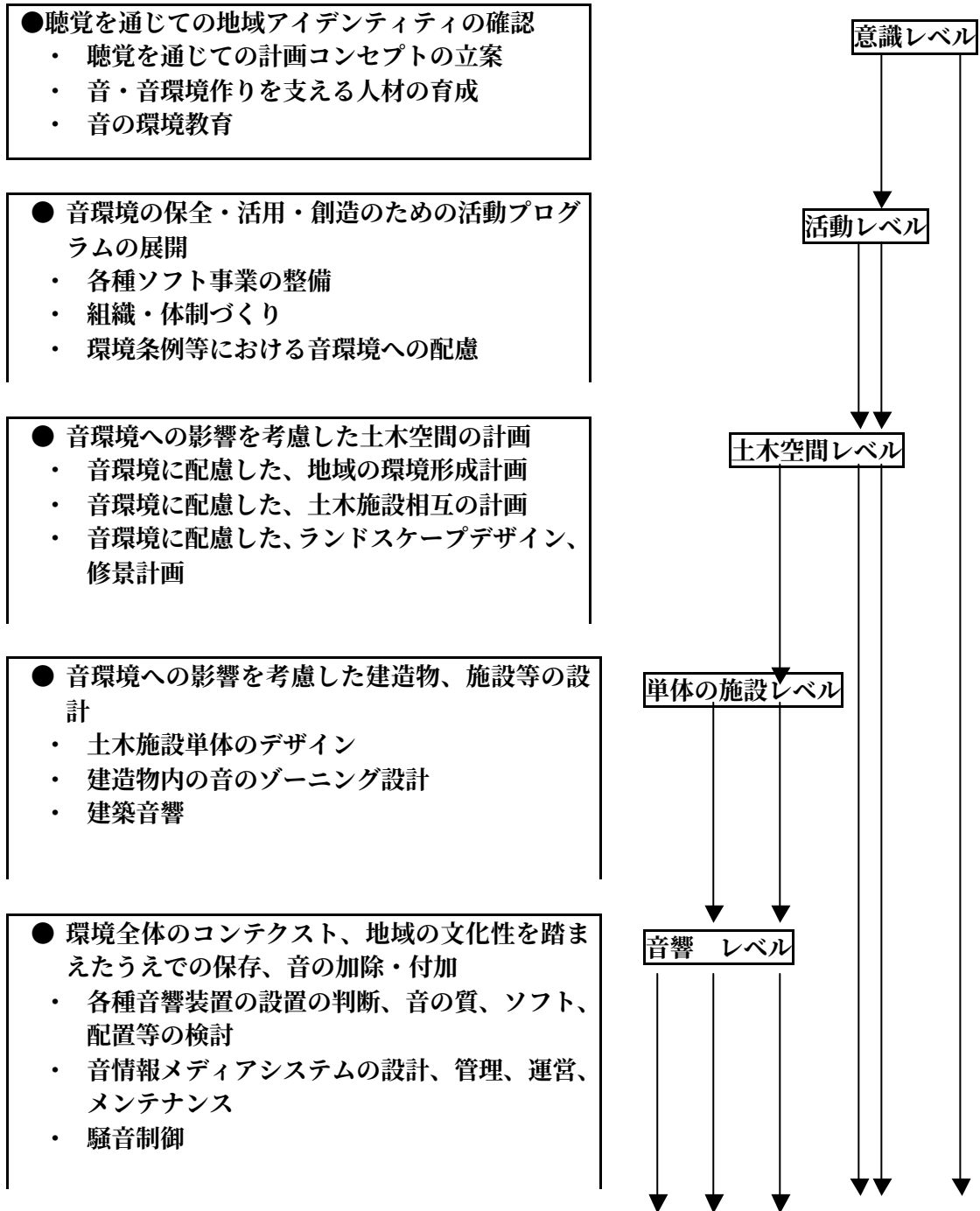
ンサスづくりをするのが実践的

3. 滝廉太郎記念館でのサウンドスケープデザイン

- ・ 滝廉太郎が少年時代をすごした阿蘇山麓の竹田の記念館
- ・ 廉太郎の耳の感性の基本を育んだ音環境は、竹田の町の響き、この家の音、庭の音
- ・ 記念館を訪れた人が、彼が聞いた竹田の音風景を迫体験できるようにデザイン
- ・ 襖や障子といった紙と木の建築によって支えられた空間だったからこそ廉太郎は溝川や遠くの音といった町の響きを聞くことが可能
- ・ デザインコンセプト：響きの庭づくり→竹の響き、すずめその他の鳥や動物の鳴き声、溝川の響き、井戸の音、飛び石と下駄の響きをデザイン

○ デザインの例「溝川の響き」：家の前の溝川はぼこぼこという無気味な音を立てることがあった。この地域で「溝川のおさん」という妖怪のたとえとされていたその音を、練太郎は怖がった。その音を家の中でも聞こえるように、溝川から記念館内の雨水処理用の溝に水を引くとともに、かつて利用されていた水路跡を復元、活用

音環境デザイン(聖心女子大学教授鳥越けい子先生による)



聴覚視点からの地域環境計画としての

音環境デザイン

鳥越先生お薦めの「日本の音風景」

○ 神が凄まう滝：称名滝

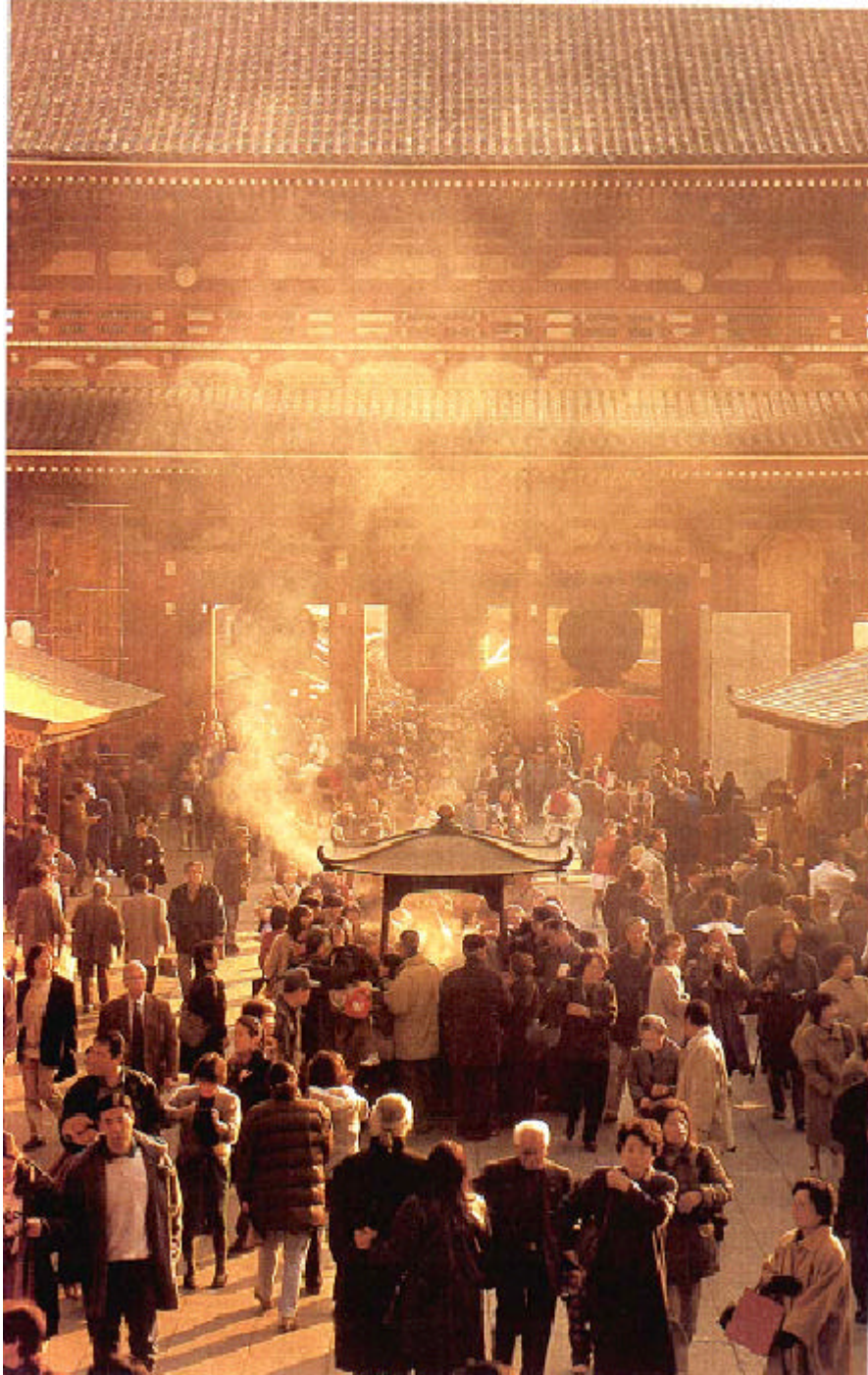
神を感じる風景－霊峰立山にある、神の山の響き



国民生活センター発行『たしかな目』1999年1月号

○ ざわめきの御利益：浅草寺雷門参道

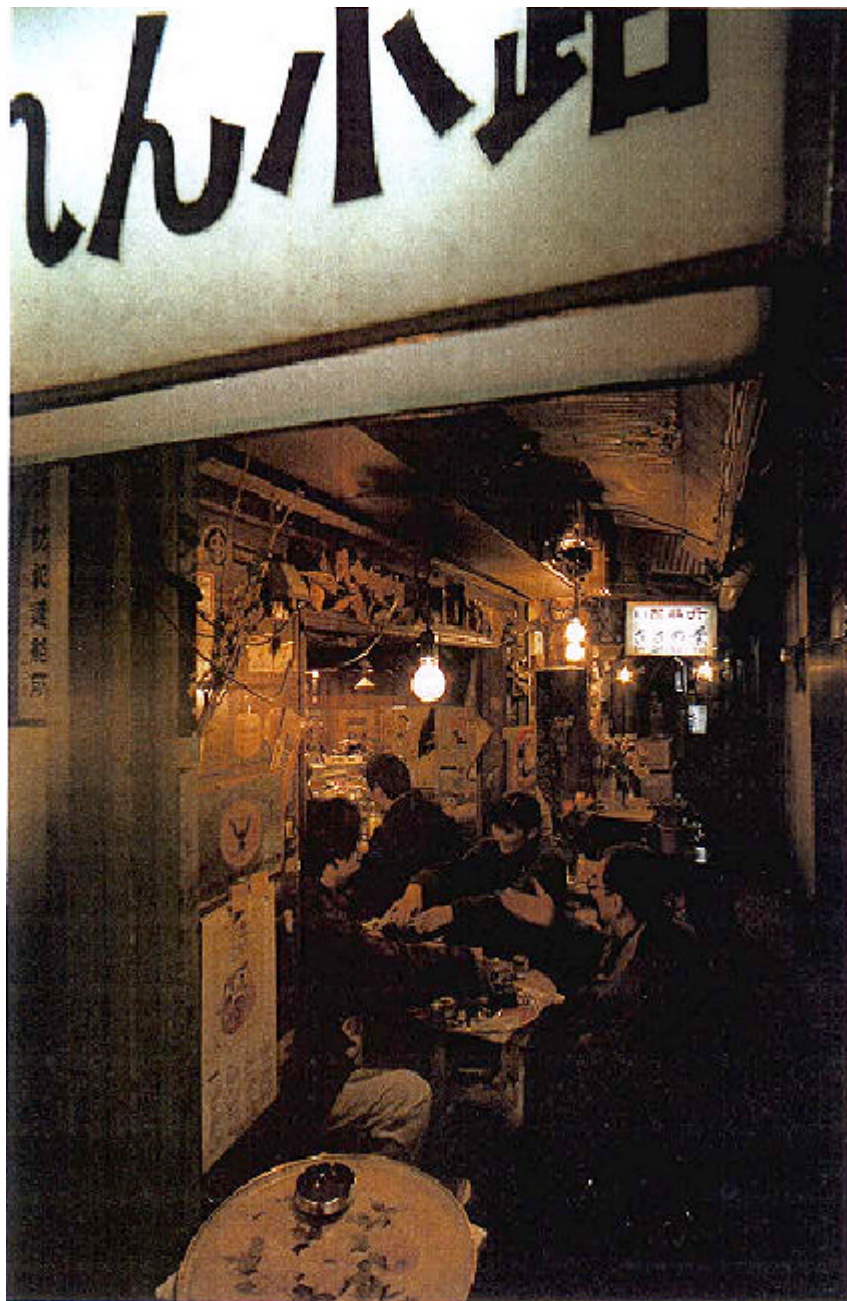
ワイワイサワサワ、参道の人の声。屋台の店先からも、客寄せの声、お猿のおもちゃが打つ太鼓の音や、お土産物の鈴の響きなどなど



国民生活センター発行『たしかな目』1999年3月号

○ 闇市の記憶：吉祥寺駅北口商店街ハモニカ横丁

子供の頃の思い出させる武蔵野と闇市の気配



国民生活センター発行『たしかな目』1999年5月号

○路地に漂う足音：京都の音

おこぼの音。下駄は桐のコポコポいう音がよろしおすね。



国民生活センター発行『たしかな目』1999年7月号

○ 引き戸の風景：家の音

玄関の戸をガラガラッと開けて……。日本にしかない引き戸の音



国民生活センター発行『たしかな目』1999年9月号

○情けの鐘：十思公園にある日本橋石町にあった「時の鐘」

石町鐘桜堂から二丁程の所に伝馬町獄があった。囚人たちは様々な思いを込めてこの鐘を聞いたことであろうし、処刑もこの鐘を合図に執行されたが、処刑者の延命を祈るかのように遅れたこともある。



国民生活センター発行『たしかな目』2000年8月号